

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホームゆうあい寺田		
所在地	京都府城陽市寺田乾出北45		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2692800044-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族のきずなを大切にすることを重視している。そのために面会は1ヶ月に1回程度というように、利用者と家族と事業者が一体となってサービスを提供している。

・「ピンピンコロリ」を目標に毎日の体操と加圧トレーニングで下肢筋力を鍛え、最期の時までもお元気で過ごしていただけるようにしている。

・小規模多機能型居宅介護事業所と日中のレクリエーション等を一緒に過ごすことで、孤立感や閉塞感を持つことなく楽しく充実した時間を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、昨年2年目を迎えるにあたって家族との関わりを更に強める事を目標に掲げて日々の支援に取り組んでいます。家族と共に外出を企画し植物園に出掛け、ほとんどの利用者が自力で歩くなど、その時の喜びが次の行動に繋がっています。入居前と入居後の変化等、事業所は家族と共に利用者の様子や変化を共有しています。地域の自立支援事業所とタイアップして清掃や喫茶の日を設けたり、豊かな食材を使った食事はボランティア集団の力が発揮されています。地域の力を結集しながら、利用者が日々元気に暮らしていけるよう力を注いでいます。その行動の原動力は共に暮らせる社会と謳う理念にあり、日々の支援にどのように活かせるかを管理者職員と共に考え取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を唱和し、共有を図っている。	法人の理念は毎朝項目を変え唱和すると共に、日々の支援にどのように生かせるか検討しています。一日の業務終了後や会議では、利用者の生活が理念やそれを基に作られたキャッチフレーズに沿ったものになっているか等絶えず振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と共に端午の節句や運動会等の行事を行い交流を図っている。 民生委員と連絡を取りながら、地域行事に参加している。	自治会に加入し、区民運動会や左義長祭りなど地域の行事に参加しています。ボランティアの関わりも多く、厨房はじめ菜園や行事にも多くの参加を得、中学生の職場体験の受け入れや保育園との交流など活発な取り組みがあります。地域に向けては、夏祭りや認知症予防講座をシリーズで開催する等法人と一体となって地域に向けた発信が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室、認知症サポーター養成講座を開催し、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「地域の拠点となるために」をテーマに会議をすすめる中で、いただいた意見をもとに運営委員会で話し合い、サービスの向上を図っている。	会議は毎年テーマを決めて行われ、今期は地域の拠点となるためにはと謳われています。事業所の状況や行事報告等と共に、テーマに沿った内容が検討され、今期は花いっぱい運動を展開しており、植菜から土作りまでが検討されています。また、子ども会への廃品回収への協力等提案された事が実践に繋がられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	城陽市地域密着型サービス事業所連絡会を通して、協力関係を築いている。	市職員の運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡会への出席があり、事業所の様子が伝わっています。また法人の担当者を通じて運営推進会議や事業所の便りを届けられ、より深い理解に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の出入り口は施錠せず常に開放している。「身体拘束ゼロ」研修を行い、ケアの向上に努めている。	毎年研修が行われ、研修内容は欠席職員にも回覧され伝達されています。玄関は日中解放されており誰でも出入りが出来るようにしています。帰宅願望のある方や出かけたい方には寄り添い、気分転換を図るなどしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にとり入れ、虐待が見過ごされないように、日々のミーティングで話し合い、意識を持ってケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、サービス内容等について詳しく説明を行っている。質問等については、その都度対応し理解と納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は必ずケア会議で話し合い、運営に反映させている。	家族の面会が多く常に会話を交わし、家族と共に利用者を支援する姿勢で意見を聞いています。転倒事故等には職員間で検討した結果や工夫を家族に伝え共に考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング等で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるよう努めている。	ミーティングや日々の支援の中で、意見は活発に出されています。利用者への支援内容も多く、皮膚のかぶれなど職員間で全体の改善に向けて検討しています。個別の面談で意見や要望を聞く機会もあり、時には法人を通じて運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営委員会等において定期的に会議を行い、職員の就業環境を整えることに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量を考慮しながら、施設内研修、外部研修への参加を促し、介護に關しての意識と技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城陽市地域密着型サービス事業所連絡会、日本認知症グループホーム協会の研修に積極的に参加することで、サービスの質を向上させるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族を交えてカンファレンスを行い、本人の要望等に耳を傾けることで安心を確保し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に耳を傾け、支援することで家族を交えて本人の安心が確保できるようにカンファレンスを行い、信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族を交えて本人の安心が確保できるようにカンファレンスを行い、信頼関係を築いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるということを常に念頭に置きながら介護にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念を毎日唱和することが、共に支え合う関係を築くという意識を高めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会を家族から促していただいている。	友人や知人の来訪があり、来てもらいやすいように声かけを行っています。経年の中で、事業所が既に馴染の場になりつつある利用者も多く、要望が少なくなっています。家族の絆を大切にしていける支援で、思いは家族と共に支援する方向で検討されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話ができるように、場所の設定と雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても、相談事があれば常に支援することを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と相談しながら対応している。	利用者や家族から聞き取った初回のアセスメントを中心に、日々の利用者の声を記録すると共に出された声を基に職員間で検討し、思いの把握に繋がっています。意向の把握の困難な場合は、状況を家族に伝え、かつての生活習慣等情報を得て、本人本位になるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族より生活歴を聴き取り対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の連絡ノートを活用しながら、一人ひとりの状況を把握し、チームアプローチに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録ノートから本人のニーズに合った介護計画を作成し、3月毎にモニタリングを行っている。	家族を交えた担当者会議を開催し、職員と共に課題を掲げ、介護計画を作成しています。3ヶ月ごとに担当職員を中心にモニタリングを行い、ケアマネジャーがまとめています。状況に変化が無ければ6ヶ月ごとに見直し、見直しに当たっては再アセスメントを行い、状況によっては医師や看護師の意見を反映して介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとにし、担当者が気づいた点を連絡ノートで共有しながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々合わせた柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協や民生からの情報をもとに行事に参加し、地域の方々との交流を図りながら、豊かな暮らしを楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望を大切にし、2週に1度の割合で往診をお願いしている。	入居に当たって、希望に沿ったかかりつけ医を選んでもらっています。協力医は月2回の往診や緊急時は24時間対応が可能であることなどから、ほとんどの利用者は協力医への変更をされています。その他の医療で家族の対応時等も含めて、家族との連携がなされ情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員から申し送りによって日常の様子を把握するとともに、医療ノートを使って情報の共有化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の様子のかかりつけ医に相談している。必要に応じてカンファレンスをする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とのカンファレンスを通して、終末期のケアについて事業所の方針を説明し、共通理解に努めている。	契約時には事業所の看取り指針を説明し、同意を得ると共に、毎年及び重度化の中でも再確認し、話し合いを重ねています。家族の意向を受け看取りの経験もあり、職員には研修を行ったり、看護職の協力や研修で学びチームで対応を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を通して実践的な研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の参加メンバーと共に、避難訓練を年2回実施している。	年2回併設の事業所と共に避難訓練を行っています。火災や通報避難誘導を昼夜設定で行い、合間には独自の消火器使用の訓練も行っています。運営推進会議時に行う事もあり、地域にはチラシの配布を行っています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼で理念を唱和することで常に意識を持ちケアにあたっている。	法人による個人情報及びプライバシーの研修が毎年行われ、事業所では資料や報告書を中心に伝え職員の理解に繋げています。言葉使いは目上の人を尊重した声かけを心がけ、会議などにテーマとして取り上げ検討しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の思いを押しつけず、選択してもらえるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人と話をする中で希望を聞きながら、その日の過ごし方を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にメイクを行い、オシャレを楽しむことができるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできることを把握し、本人に適した役割を職員と一緒にこなせるように努めている。	利用者には野菜を切ったり味見をしたり、配下膳や食器ふきなど出来る事をしてもらっています。昼食は小規模と合同で、厨房担当者による食事の提供があり、利用者の要望を伝えたり、献立や食材の説明を受けたり、菜園の収穫物が食卓を潤す事もあり、大勢で楽しく食べる機会となっています。天気の良い日には庭の藤棚で食事を楽しんだり、外食に出かけたりしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月に1度、カロリー計算等を行い、栄養のバランス確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをすることで清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録のチェックと確認をする。また日頃から本人の残存機能を引き出すケアに努めている。	トイレでの排泄や出来る限り布パンツとパッドで過ごせるよう心がけ、排泄チェック表を基に必要な方には誘導を行っています。入居時には紙パンツから布パンツとパッドなどへ変更したり、利用者の様子を見ながら支援し、トイレ誘導で失敗が減るなど改善に向けて取り組んでいます。紙パンツから布パンツへの変化の中で、皮ふの改善に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック、食事の観察と水分補給を心がけている。さらに、毎日のラジオ体操と事業所独自の便秘予防体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の様子を見ながら入浴日や時間帯を考慮し、柔軟に対応している。就寝前に入浴する方もある。	週3回を目途に、希望に合わせた入浴の支援を行っています。夕食後や夜間にも希望に沿うようにしており、ゆず湯や菖蒲など季節毎に楽しんでいます。拒否傾向の方には、タイミングを見計るようにしたり、翌日に回すなどしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人をよく観察し対応している。特に職員の声かけに対する反応に注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録を見ながら服薬支援をしている。特に変更時には看護職員に確認、報告、記録に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人とコミュニケーションを取り、将棋や花植え等好きなことに取り組んでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣でや観梅等月1回程度、季節ごとの外出、レクリエーションを実施している。本人の希望を把握し実行できるような計画に努めている。	事業所は広く、庭の藤棚や玄関先のベンチを始め畑での収穫や水やりなど外気に触れる機会があり、天気が良ければ外で楽しんでいます。つつじや梅、紅葉等を楽しみに出かけたりしています。個別の要望にも応え、車で出かけることもあり利用者の思いに沿って外出できるよう支援しています。	

グループホーム ゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人との信頼関係を築き、希望や要望に応じることができるよう努めている。また、当ホームでの月1度の喫茶レクで実際にお金を使ってコーヒーを飲むという体験をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話により本人の精神状態が安定できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事写真を廊下や共用の空間に掲示したり、季節感を味わいながら居心地良く過ごせるように工夫している。	行事の写真やボランティアの援助で作られた作品や習字を飾り、共用部分にはいつも花のある生活を心がけています。職員と利用者や、地域の授産施設の就労援助事業等とのタイアップで清掃が行われ、空調に注意を払うと共に清潔に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファやテーブルの配置を工夫し、本人の状況に合った場所を利用できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心がけ、子どもさんやお孫さんの写真を飾ったり、お気に入りの品を飾って居心地良くしている。	入居時には家族と相談し、馴染みの物を持って来てもらっています。希望によっては床にカーペットと布団での就寝など好みや状況に合わせたしつらえがなされています。箆笥や椅子、書棚等の家具や、家族の写真、事業所で作った作品等が飾られ、それぞれの利用者らしい住いとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも安心して歩けるように居室や共用空間には障害となるものがないように注意を払って、整理整頓に心がけている。		